

平成 29 年度
第 4 回いわき市地域包括ケア推進会議
議事録

保健福祉部 地域医療介護室
地域包括ケア推進課

平成 29 年度第 4 回いわき市地域包括ケア推進会議議事録

1 日 時 平成 30 年 2 月 14 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 00

2 場 所 いわき市文化センター 4 階 大会議室 2

3 出席者

委員	箱崎	秀樹	委員	上遠野	理恵
委員	渡邊	健二	委員	鈴木	繁生
委員	園部	義博	委員	木田	佳和
委員	齊藤	隆	委員	板東	竜矢
委員	木村	守和	委員	山内	俊明
委員	松村	耕三	委員	田子	久夫
委員	中里	孝宏	委員	根本	寿子
委員	強口	暢子	委員	篠原	清美
委員	林	清	委員	菅波	香織
委員	古山	綾子	委員	鎌田	真理子
委員	高沢	祐三			

※ 増山祥二委員、長谷川祐一委員、新家利一委員欠席

4 事務局

保健福祉部 次長 (総合調整担当) 兼地域医療介護室長	飯尾	仁
保健福祉課 参事兼課長	園部	衛
障がい福祉課 課長	長谷川	政宣
地域医療課 参事兼課長	藁谷	孝夫
地域包括ケア推進課 課長	佐々木	篤
長寿介護課 課長	駒木根	通人
保健所総務課 参事兼課長	中澤	秀夫
保健所地域保健課 課長	相原	好子
平地区保健福祉センター 所長	鵜沼	宏二
小名浜地区保健福祉センター 所長	緑川	直
勿来・田人地区保健福祉センター 所長	福田	敦美
常磐・遠野地区保健福祉センター 所長	四倉	歩
内郷・好間・三和地区保健福祉センター 所長	村木	宏一
四倉・久之浜大久地区保健福祉センター 参事兼所長	堀川	盛敏
小川・川前地区保健福祉センター 所長	矢吹	和義
平地域包括支援センター 管理者	吉田	郁子
小名浜地域包括支援センター 管理者	加藤	幸恵
勿来・田人地域包括支援センター 管理者	野口	富士子
常磐・遠野地域包括支援センター 管理者	小岩	洋子

内郷・好間・三和地域包括支援センター 管理者
 四倉・久之浜大久地域包括支援センター 管理者
 小川・川前地域包括支援センター 管理者
 保健福祉課 主任主査
 地域医療課 主幹兼課長補佐
 地域医療課 主査
 地域包括ケア推進課 主幹兼課長補佐
 地域包括ケア推進課 企画係長
 地域包括ケア推進課 企画係 主査
 地域包括ケア推進課 企画係 主査
 地域包括ケア推進課 企画係 主事
 地域包括ケア推進課 主任主査兼事業推進係長
 地域包括ケア推進課 事業推進係 主査
 地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任
 地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任
 長寿介護課 課長補佐
 長寿介護課 課長補佐兼徴収推進担当員
 長寿介護課 長寿支援係長
 長寿介護課 主任主査兼介護保険係長
 長寿介護課 介護保険係事業推進員
 長寿介護課 介護認定係長

松 田 和 枝
 熊 田 智英子
 藤 舘 友 紀
 白 土 典 子
 酒 井 光
 阿 部 征 人
 池 田 一 樹
 青 木 崇 徳
 瀬 谷 伸 也
 猪 狩 僚
 小 野 光 貴
 佐 藤 和 幸
 金 成 聡 司
 門 馬 理 沙
 相 川 朋 生
 安 井 淳
 鈴 木 英 規
 藤 舘 克 共
 坂 本 紀一郎
 坂 入 直 人
 吉 田 雅 昭

5 議 事

【協議事項】

- (1) 地域包括ケア（システム）とは
- (2) 前回の主な意見
- (3) 本人の選択と家族の心構え
- (4) すまいとすまい方
- (5) 介護予防・生活支援
- (6) 医療・看護・介護・リハビリ・保健福祉

6 当会議の公開について

当会議について、市民への公開を原則とし、議事の内容を市ホームページへ掲載することで、広く周知を図ることとなった。

7 議事録署名人の選任

議事に先立ち、本日の議事録署名人について、齊藤委員、板東委員が選任された。

8 会議の概要

「(1) 地域包括ケア(システム)とは」「(2) 前回の主な意見」	
事務局	〈説明〉
事務局	〈権利擁護に関する啓発について説明〉 〈質疑応答なし〉
「(3) 本人の選択と家族の心構え」	
事務局	〈説明〉
A委員	喉年齢測定ブースで、いごくフェスに参加した。こうした機会を捉えて、高齢者に口腔の状態を意識してもらうことで、予防に繋がるものと感じた。
B委員	つどいの場食堂ブースで、いごくフェスに参加した。非常に好評で、準備していた食べ物はすぐになくなってしまった。つどいの場でイベントを知って、会場を訪れたという方も多かったようで、一般の方に多く参加してもらえたように思う。
C委員	中劇場で行われた福祉ラップや表彰式、即興劇などを楽しく見させてもらった。
木村副会長	堅苦しい雰囲気だと関心を抱いていただけない方にも参加していただけたようで、大変有意義なイベントだった。こうした企画を打ち出して、より広範な人々に地域包括ケアを知っていただければと思う。
(4) すまいとすまい方	
事務局	〈説明〉
D委員	〈入居・入所支援について説明〉
木村副会長	低所得者の住まいや住まい方を支える上で、どのように行政が関わっていくかが気になるところだ。
高沢会長	協賛金を拠出する際に、法人会計上の整理が必要になると思われるので、その点を整理した上でお示しすることが、まず考えられる。 喫緊の課題と認識しているので、関係機関と協議を進めながら、行政としても取り組んでいきたい。

E委員	判断能力のある方を対象としているようだが、対象を拡大する意向はあるのか伺いたい。
D委員	保佐人がついていてる方にも事業を利用してもらっている状況にある。契約を結べるだけの判断能力があるか、というのを一つの目安にしている。
F委員	後見人がついてる場合でも、入居や入所の際に問題が生じることがある。最終的にケースバイケースなので、事例の蓄積が必要だろう。
高沢会長	判断能力があるうちから公正証書を残しておくなどの、そうした切り口でのアプローチも必要になるだろうと考えている。
D委員	本人の意思が尊重されるような体制を整えていきたい。
G委員	判断能力のない方への対応についても、住まい部会設置準備会で協議されたところであり、成年後見制度の活用もあわせて考えていく必要があるだろう。また、社会福祉法人は、社会貢献として協賛金を出すだけでなく、その協賛金がどのように活用されているかを会議に参加するなどして、主体的に事業へ関わっていく必要があるものと考えている。
H委員	社会福祉協議会としても、こうした動きに関わっていきたい。
(5) 介護予防・生活支援	
事務局	〈説明〉
F委員	学校の空き教室を活用したサロン活動に取り組む事例が資料に載っているが、豊間中学校にはこうした交流スペースがあらかじめ設けられていると聞いた覚えがある。今後ますます、こうした社会資源を有効に活用していく必要があるだろう。また、周囲の助けを必要としていても、それを発信できない方が多いので、キーパーソンが手助けする側と手助けされる側を橋渡す必要がある。
I委員	市民と避難者とが一緒に集えるような場を作っていく必要があると感じている。
J委員	マネジメント支援会議でアドバイザーを務める方向けの研修会を開催する予定である。こうした研修会を受講してもらうことで、アドバイスの質をより良いものにできればと考えている。
K委員	つどいの場についてだが、専門職が派遣されたときだけ参加者が増えるのでは、あまり意味がない。先駆的な活動に取り組んでいるつどいの場の

	事例を紹介するなどして、地域にお住まいの方々の力を引き出してあげるような工夫が必要だろう。
(6) 医療・看護・介護・リハビリ・保健福祉	
事務局	(説明)
木村副会長	いわき在宅医療ネットワークを立ち上げたので、関係者と市民に周知していきたい。
L委員	認知症初期集中支援チームについてだが、認知症が疑われる方へのファーストタッチというよりは、困難ケースへの対応が主になっている。
その他	
木村副会長	高齢者生活安全部会でも話したことだが、市内における介護サービス事業所の協議会があれば、介護従事者の教育や認知症対応の向上が見込めるのではないかと考えており、関係団体に呼びかけているところだ。また、認知症絵本教室を市内全体に広めるため、校長会へも働きかける予定である。
K委員	身体機能を改善するための介護という考え方についても、介護従事者に伝えていく必要があるものと感じている。
L委員	認知症の方にありがちだが、治療によって状態が改善しても、受け入れ先がないケースがある。状態像に応じて、どこでどう生活するのか、イメージを共有することが必要だろう。

本議事録に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

平成30年5月31日

議事録署名人

齊藤 隆 (印)

議事録署名人

板東 竜矢 (印)